

〔原文〕

以天讖文支干相配長安國家以理、所問、乃求索洞通天地之因(圖)讖文一言、萬事(世)不可易。天君疾多災、愁苦(之)。夫皇天以四時為肢、地以五行為體。肢主盛衰、體主規矩。部此九神、同(周)流天下、上下洞極、變化難覩。為天下重寶、為眾門戶。自有固常、不可妄犯。順之者長吉、亂之者天地乖忤。天常讖法、以南方固為君也。日在南方為君。火在南方為君。太陽在南方為君。四時盛夏南方為君。五祀竈在南方為君。五藏心在南方為君。君者当衣赤服、火之行也。君有變怪、常與陽相應、非得與地相應也。日者最明、為眾光之長、故天常以日占君德盛衰。人君之法、當求與仁者同家、有心者為理。共理者常當行道而好生。故東方者好生、南方者好養。不仁不可共理、不明不可為君長。

〔訓讀〕

天讖文を以て支干と相配し、国家を長く安んずに理さむるを以てす。問ふ所は、1乃ち天地の凶讖文の一言を求索・洞通し、萬世に易ふるべからず。天君は多災を疾み、愁苦す。夫れ皇天は四時を以て肢と為し、地は五行を以て体と為す。肢は盛衰を主り、体は規矩を主る。此の九神を部べ、あまねく天下に流りて上下を洞極し、変化して覩難し。天下の重寶となり、眾門戸となる。自ら固常有り、妄に犯すべからず。之に順へば長く吉く、之を乱さば天地乖忤す。天常讖法、南方を以て固より君と為るなり。日は南方に在りて君と為る。火は南方に在りて君と為る。太陽は南方に在りて君と為る。四時の盛夏は南方にて、君と為る。五祀の竈は南方に在りて君と為る。五臓の心は南方に在りて君と為る。君は當に赤服を衣るべきは、火の行なればなり。君に変怪が有れば、常に陽と相応じ、地と相応じ得るに非ざるなり。日は最も明るく、眾光の長と為り、故に天は常に日を以て君徳の盛衰を占ふ。人君の法、當に仁者と家を同じくする、心ある者は理と為るを求むべし。理を共にする者は常に當に道を行ひて生を好むべし。故に東方は生を好み、南方は養ふを好む。仁ならざれば、理を共にするべからず、明ならざらば、君長と為るべからず。

〔現代語訳〕

天の讖文を干支と相配ること、国を長く安定させて、治まる。それを聞いたところに、それは天地の凶、讖文の一言を探し、突き通すことである、萬世で変えることはできない。天君は多くの災難、民の苦しみを憎む。そもそも皇天は四時を手足とし、地は五行を体とする。手足は盛衰をつかさどり、体は規矩をつかさどる。この九神を統率し、同じく天下の間に流れている。上下洞極には、変化するのではつきり見ることができない。天下の宝物となり、多くの門戸となる。（自ら一定不変であり）、みだりに破ることができない。これに従えば、長い状態になり、これを乱せば、天地に逆らうことになる。天常讖法によれば、南方が元々君である。日は南方にあって、君である。火は南方にあって君である。太陽は南方にあって君である。四時の真夏は南方にあって君である。五祀の竈は南方にあって君である。五臓の心は南方にあって君である。君が赤服を着るべきなのは、火行であるからである。君に災難変異があれば、常に陽と相応し、地（陰）と相応してはいけない。日は一番明るく、数々の光の君長であり、そのために、天はいつも日によって君徳の盛衰を占う。人君の法則は、仁者と一緒にいることや、心がある者と（国を）を治めることを求めるべきである。ともに（国を）治めるものは常に道を行い生を好むことができる。そのために、東方は生を好み、南方は養うことを好むのである。仁者でないと、一緒に（国を）治めることはできず、賢明でないと、君長になることはできない。

四時 五行：

『尚書・洪範』

一曰水、二曰火、三曰木、四曰金、五曰土。水曰潤下、火曰炎上、木曰曲直、金曰從革、土爰稼穡、潤下作鹹、炎上作苦、曲直作酸、從革作辛、稼穡作甘。

『孫子・虛實』

故五行無常勝、四時無常位、日有短長、月有死生。

『春秋繁露』 五行之義

天有五行：一曰木、二曰火、三曰土、四曰金、五曰水。木、五行之始也；水、五行之終也；土、五行之中也。此其天次之序也。木生火、火生土、土生金、金生水、水生木、此其父子也。木居左、金居右、火居前、水居後、土居中央、此其父子之序、相受而布。是故木受水、而火受木、土受火、金受土、水受金也。諸授之者、皆其父也；受之者、皆其子也。常因其父以使其子、天之道也。是故木已生而火養之、金已死而水藏之、火樂木而養以陽、水克金而喪以陰、土之事火竭其忠。故五行者、乃孝子忠臣之行也。五行之為言也、猶五行

與？是故以得辭也、聖人知之、故多其愛而少嚴、厚養生而謹送終、就天之制也。以子而迎成養、如火之樂木也。喪父、如水之克金也。事君、若土之敬天也。可謂有行人矣。五行之隨、各如其序、五行之官、各致其能。是故木居東方而主春氣、火居南方而主夏氣、金居西方而主秋氣、水居北方而主冬氣。是故木主生而金主殺、火主暑而水主寒、使人必以其序、官人必以其能、天之數也。土居中央、為之天潤。土者、天之股肱也。其德茂美、不可名以一時之事、故五行而四時者。土兼之也。金木水火雖各職、不因土、方不立、若酸咸辛苦之不因甘肥不能成味也。甘者、五味之本也；土者、五行之主也。五行之主土氣也、猶五味之有甘肥也、不得不成。是故聖人之行、莫貴於忠、土德之謂也。人官之大者、不名所職、相其是矣。天官之大者、不名所生、土是矣。

『太平經合校』卷十八至三十四乙部不分卷 太平經鈔乙部 安樂王法
四時五行守道而行、故能變化萬物、使其有常也。陰陽雌雄守道而行、故能世相傳。

『太平經卷』之四十 分解本末法第五十三
夫天道生物、當周流俱具、睹天地四時五行之氣、迺而成也。一氣不足、即輒有不足也。故本之於天地周流八方也、凡數適十也。〈止〉真人寧解知之不乎？」唯唯。善哉善哉！

九神：

『太平經合校』卷九十三己部之八 敬事神十五年太平訣第一百四十

是故謹順四時、慎五行、無使九神戰也。故當敬其行而事其神。今天第一上平氣且至、故教真人敬四時五行、而令人大小共興用事其神事。

乖忤：

『漢書·食貨志上』

上下相反、好惡乖迕、而欲國富法立、不可得也。師古：迕、違也。（中華書局1962年1117頁）

五祀：

『禮記·月令』

天子乃祈來年於天宗、大割祠于公社及門閭。臘先祖五祀、勞農以休息之。天子乃命將帥講武、習射御角力。鄭玄：此周禮所謂蠟祭也。天宗謂日月星辰也。大割大殺群牲、割之也。臘、謂以田獵所得禽祭也。五祀、門、戶、中霤、竈、行也。『禮記正義』中華書局2009年811頁）

『論衡·祭意』

社稷、報生萬物之功、社報萬物、稷報五穀。五祀、報門、戶、井、竈、室中霤之功、門、戶、人所出入、井、竈、人所飲食、中霤、人所託處、五者功鉤、故俱祀之。

變怪：

『太平經合校』卷八十六己部之一 來善集三道文書訣一百二十七

夫大災異變怪者、是天地之大談也；中災異變怪者、是天地之中談也；小災異變怪者、是天地之小談也。

『太平經合校』卷五十四丙部之十六 去浮華訣第七十二
逆之則水旱氣乖迕、流災積成、變怪不可止、名為災異。衆賢迷惑、不知但逆氣、不順時務所
爲也、不可不重慎哉。

仁者..

『太平經合校』卷四十九丙部之十五 急學真法第六十六
仁者、乃能恩愛、無不包及、但樂施與無窮極之名字。

『太平經合校』卷六十五丁部之十四 王者賜下法第一百
其中大賢仁者、常恐其君老、分別爲索殊方異方、還付其帝王、故當賜以道書文。

〔原文〕

東方木仁、南方火明。東方主道、南方主德。道主生、德主養。東方爲文、龍見負之。南方爲章、故正爲文章也。東方爲少陽、（一君）之始生也、故（一日）出東方。南方太陽、君之盛德明照。少陽、君之家、木生火也。少陰爲臣、以義屈伏於太陽。故金隨火屈折、（佐人）可欲爲。臣者常以義屈折、佐君欲爲也。故少陰爲臣、太陰爲民、民流行不止、故似水流行不息。民者、主當爲國家王侯理生。故水養木、木者君之家也。天之格讖、少陽畏少陰。故臣者、反主錄國家王侯官屬也。太陽畏太陰、國有道德、而君臣賢明、則民從。國無道德、則民叛也。是地理國之本、民多爲富、民少爲貧。天格法、分爲六部。東南上屬天、萬物生皆上行。蚊行人民皆出外、屬天。

〔訓讀〕

東方は木にして仁なり、南方は火にして明なり。東方は道を主り、南方は徳を主る。道は生を主り、徳は養ふを主る。東方は文爲り、龍見れて之を負ふ。南方は章爲り、故に正に文章を爲す。東方は少陽爲り、君の始めて生まるるなり、故に日は東方より出づ。南方は太陽なり、君の盛徳明照す。少陽は、君の家なり、木は火を生ずるなり。少陰は臣爲り、義を以て太陽に屈伏す。故に金は火に随ひて屈折し、人の欲爲に佐けるなり。臣は常に義を以て屈折し、君の欲爲に佐けるなり。故に、少陰は臣爲り、太陰は民爲り、民は流行して止まらず、故に水の流行して息まざるに似る。民は、国家王侯の理生の爲に主當す。故に水は木を養い、木は君の家なり。天の格讖、少陽は少陰を畏る。故に臣は、反って国家王侯の官

属を主録す。太陽は太陰を畏る。国に道德有りて君臣賢明ならば、則ち民従ふ。国に道德無ければ、則ち民叛くなり。是故に理国の本、民多くば富むと為り、民少なくば貧と為る。天の格法は、分かれて六部為り。東南上天に属し、萬物生まれて皆上行す。蛟行、人民皆外に出て、天に属す。

〔現代語訳〕

東方は木は仁であり、南方は火で明である。東方は道をつかさどり、南方は徳をつかさどる。道は生をつかさどり、徳は養うことをつかさどる。東方は文であり、龍が現れてそれを背負う。南方は章であり、そのため、まさに文章をつくりだす。東方は少陽であり、君がそこから始めて生まれる。そのため、日は東方から昇るのである。南方は太陽であり、君の盛徳は明るく輝いている。少陽は、君の家族であり、木は火を生じる。少陰は臣であり、義のために太陽に屈伏する。そのため、金は火に従って屈伏し、人のやりたいことに合わせる。臣は常に義のために屈伏し、君のやりたいことに合わせる。そのため、少陰は臣であり、太陰は民である。民は動いて止まらないから、水の絶えず流れ動いている状態に似ている。民は国家王侯のために務める。そのため水は木を養い、木は君の家である。天の格識によると、少陽は少陰を恐れる。そのため臣は返って国家王侯の官吏を採録する。太陽は太陰を恐れ、国に道德あり、そして君臣が賢明であれば、民は従う。国に道德がなければ、民は背く。である国を治める根本は、民が多ければ豊かになり、民が少なければ貧しくなる。天の格法は、分かれて六部となっている。東南は上天に属し、萬物は生まれて皆上に行く。蛇のような動物（爬虫？）人間皆外に出て、天に属す。

東方主道、南方主徳。道主生、徳主養 ..

『老子』51章

道生之、徳畜之、物形之、勢成之。是以萬物莫不尊道而貴徳。道之尊、徳之貴、夫莫之命常自然。故道生之、徳畜之；長之育之；亭之毒之；養之覆之。生而不有、為而不恃、長而不宰、是謂玄徳。

見龍負之 ..

『周易正義・乾』

九二見龍在田、利見大人。

文章

『太平經合校』卷六十五丁部之十四 王者賜下法第一百

文者生於東、明於南、故天文生東北、故書出東北、而天見其象。虎有文、家在寅；龍有文、家在辰；負而上天、離為文章在南行。故三光為文、日最大明。故文者生於東、盛於南

少陽 太陽 太陰 少陰

『漢書·曆律志上』

咸有五象、其義一也。以陰陽言之、大陰者、北方。北、伏也、陽氣伏於下、於時為冬。冬、終也、物終臧、乃可稱。水潤下。知者謀、謀者重、故為權也。大陽者、南方。南、任也、陽氣任養物、於時為夏。夏、假也、物假大、乃宣平。火炎上。禮者齊、齊者平、故為衡也。少陰者、西方。西、遷也、陰氣遷落物、於時為秋。秋、胆也、物另斂、乃成孰。金從革、改更也。義者成、成者方、故為矩也。少陽者、東方。東、動也、陽氣動物、於時為春。春、蠢也、物蠢生、乃動運。木曲直。仁者生、生者圜、故為規也。中央者、陰陽之內、四方之中、經緯通達、乃能端直、於時為四季。土稼嗇蕃息。信者誠、誠者直、故為繩也。五則揆物、有輕重圓方平直陰陽之義、四方四時之體、五常五行之象。厥法有品、各順其方而應其行。職在大行、鴻臚掌之。

以義屈伏於太陽

『論衡·問孔』

五常之道、仁、義、禮、智、信也。五者各別、不相須而成、故有智人、有仁人者；有禮人、有義人者。人有信者未必智、智者未必仁、仁者未必禮、禮者未必義。子文智蔽於子玉、其仁何毀？謂仁、焉得不可？

『太平經合校』卷一百五十四至一百七十癸部不分卷 七事解迷法

今此上德、仁、義、禮、文、法、武七事各異治、俱善有不達、而各有可長、亦不可廢、亦不可純行。

理生

『抱朴子·外篇·守壻』

進則侶鴻鸞以振翮、退則參陶白之理生、仕必霸王、居必千金

治生

『史記·淮陰侯列傳』（韓信）

始為布衣時、貧無行、不得推擇為吏、又不能治生商賈、常從人寄食飲。

官屬

『周禮·天官·大宰』

一曰官屬、以舉邦治。鄭玄：官屬、謂六官、其屬各六十。『周禮註疏』中華書局 2009 年、1389 頁）

太平經合校卷六十九戊部之一
太平經卷之六十九

天讖支干相配法第一百五

真人再拜曰：「愚賤生緣天師常待之以赤子之分、恩愛洽著、倉皇得旦夕進見、天功至大、不可謝。今欲復有質問密要、天之祕要、又不敢卒言。」「平道之、子既爲天問事、當窮竟、不得中棄而止也。」「唯唯。愚生見天師所說、無有窮極時也。迺後弟子俱天覺承知、天師深洞知天地表裏陰陽之精、諸弟子恐一旦與師相去、無可復於質問疑事、故觸冒不嫌、問可以長久安國家之讖、令人君常垂拱而治、無復有憂。但常當響琴瑟、作樂而遊、安若天地也、無復有危時、豈可聞乎哉？」「然、諸真人思精進乎？深眇哉、〈起〉所問、迺求索洞通天地之圖讖文、一言迺萬世不可易也。天公疾多災愁苦之、〈止〉迺使諸真人來問疑乎？」「諾。」「且爲真人具說天之規矩大要、祕文訣令、使其□□、真人自隨而記之。」「唯唯。」「然、〈起〉夫皇天迺以四時爲枝、厚地以五行爲體、枝主衰盛、體主規矩。部此九神、周□天下、上下洞極、變化難睹。爲天地重寶、爲衆神門戶。自有固常、不可妄犯、順之者長吉、亂之者長與天地乖忤。〈止〉」「唯唯。願聞其意、豈可睹耶？」「善哉、諸真人言也。方爲子具道之、但俱自精、安坐思吾言。」「唯唯。」

〈起〉「天常讖格法、以南方固爲君也。故曰在南方爲君也、火在南方爲君、太陽在南方爲君、四時、盛夏在南方爲君、五祀、灶在南方爲君、五藏、心在南方爲君。君者、法當衣赤、火之行也。是故君有變怪、常與陽相應、非得與他行相應也。陽者曰最明、爲衆光之長、故天讖常以日占君盛衰也。真人知之耶？」「唯唯、行知之矣。人君之法、常當求與仁者同家、有心者爲治。其可與共爲治者、常當行道而好生。小小幼弱、於其長臣賢成器者、君當養之、不宜傷也。故東方者好生、南方者好養。夫不仁用心、不可與長共事、不明、不可以爲君長。故東方者木仁有心、南方者火明也。夫天法、帝王治者常當以道與德、故東方爲道、道者主生；南方爲德、德者主養、故南方主養也。治者、當象天以文化、故東方爲文、龍見負之也。南方爲章、故正爲文章也。〈止〉章者、大明也、故文生於東、明於南。故天文者、赤也、赤者、火也。仁與君者動上行、日當高明、爲人作法式。故木與火動者、輒上行也、君之象也。故居東、依仁而上、其治者故當處南。〈起〉故東方爲少陽、君之始生也、故日出於東方也。南方爲太陽、君之盛明也。少陽爲君之家及父母、太陽爲君之身、君之位也。少陽爲君之家、木爲火之父母、君以少陽爲家、火稱木之子。〈止〉真人知之耶？」「唯唯。」「子已知之矣。〈起〉少陰爲臣、臣者以義屈折、伏於太陽。故金隨火屈折、在人可欲、爲臣者常以義屈折、佐君可欲爲也、故少陰稱臣也。〈止〉真人知之耶？」「唯唯。」

「〈起〉太陰爲民、民 行而不止。故水 行而不知息也。民者、職當主爲國家王侯治生。故水者、當隨生養木也。東方者、君之家也。〈止〉真人知之耶？」「唯唯。」「行、子已知之矣。」

「〈起〉天之格讖、少陽者畏少陰。故臣者、反主錄國家王侯官屬也。太陽畏太陰、是故國有道與德、而君臣賢明、則民從也。國無道德、則民叛也。是故治國之大要、以多民爲富、少民爲大貧困。〈止〉諸真人曉知之耶？」「唯唯。」「行、已覺矣。」

「〈起〉天之格法、分爲六部。東南上屬於天、故萬物生皆上行、蛟行人民皆出處外也、屬於天。故天爲之色、外蒼象木、內赤象火。〈止〉真人知之耶？」「唯唯。」「行、已曉矣。」